

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	さくらクラブ			
○保護者評価実施期間	2026年6月15日 ～ 2026年7月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数)	23人
○従業者評価実施期間	2026年6月15日 ～ 2026年7月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	2人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 10月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	固定化しない一人ひとりへの環境づくりの定着と深化 一人ひとりに応じた最善の利益をご家族と共に探求し、安心感と「楽しい」をベースとした多角的な体験機会を提供している。成功体験、失敗体験も重ねられる環境づくり。	個別の「やってみたい」を尊重し、スモールステップでの成功体験、そして失敗体験を積める環境が定着している。 特性や興味、ニーズに応じた個別支援計画を作成し、必要に応じて、視覚支援や小グループ活動の工夫について日常的に職員間で振り返り・微調整を行い、ご家族との連絡ノートや面談での丁寧な情報共有を行うよう心がけている。	様々な支援手法についての学びを深め、専門職（OT・ST等）との連携を模索し日常の個別支援に反映できるようにしていく。また、学校や家庭等での場面ごとの行動変化を多角的に把握し、チーム全体で一貫したアプローチができる体制をさらに強化していく。
2	多様な年齢層・個性が自然に響き合う交流空間 年齢や特性の異なる子ども同士が共に過ごす中で、お互いの違いを認め合い、豊かな気づきや社会性を育む場を創出している。	異年齢・多特性の集団の中で、互いの存在を尊重し合える関わりを意識的に設定している。 時には自分の気持ちを調整したり相手の思いに気づいたりする場面を丁寧に見守り、固定的な役割に縛られない自然なコミュニケーションと相互理解を促している。	固定化された役割（お世話役等）に捉われず、個々が自身の成長や他者への貢献を感じられる機会を意図的に設定する。 他者との関わりを通じて自己肯定感を高め、集団の中で自分らしく過ごせる力を育む継続的なアプローチを実践していく。
3	法人内多部門との連携によるスケールメリットの活用 障害福祉サービスや若者支援等、法人内の多岐にわたる事業基盤を活かし、将来を見据えた切れ目のない支援提案を行っている。	ライフステージを見据えた情報提供や相談対応を実施し、保護者の不安軽減につなげている。 法人内の他部門や専門機能と連携し、進路や将来の福祉サービス利用に関する具体的な事例紹介や個別相談を継続的に実施している。	法人内の多角的なリソースをよりタイムリーに活用できるよう、研修・事例検討会や情報共有の仕組みを定期化する。本人・家族の将来のビジョンに寄り添い、移行期も含めた長期的な見通しを持てる支援ノウハウを蓄積していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多様化する支援ニーズに対する手厚い体制の確保 基準内での職員配置は維持しているものの、より丁寧な支援、手厚い見守りを実現するための人員・専門性の更なる拡充が課題。	利用児童の多様化や個別支援ニーズの高まりに対し、限られた配置の中で丁寧な対応を行うための時間的・人力的余裕の確保が常に求められている。 個々の状況に応じた細やかなフォローを行うための体制づくりに工夫を重ねている段階である。	加配体制を整えられるよう職員採用を進める。法人内研修を通じた職員の専門性向上を推進するとともに、効率的な業務配置を見直す。併せて実習生や地域ボランティアの受入支援体制を整え、現場で余裕を持った支援環境の維持を目指す。
2	見えにくい情報発信、外部機関との連携、積極的な発信 日常の情報共有は良好である一方、各種マニユアル・非常災害時等の取り組みについての情報発信が不十分。また交流へのニーズはあるものの、十分に行えていない。教育・医療・関係機関等の外部に向けた自事業所の取り組み発信がまだ十分とは言えない。	日常の支援や情報交換はスムーズに行われているが、その他の情報発信でお便り、法人広報誌、LINEなどで行っているが有効活用できていない。事業所で蓄積された実践や独自の工夫を外部機関へ発信・連携する機会が不足している。	情報の発信の在り方や、様々な取り組みについてご意見をいただき、改善出来るようにしていく。事業所での取り組み事例や支援工夫を関係機関との連携会議等を通じて積極的に発信・共有できるようにする。
3	地域社会との双方向での交流・つながりの深化 地域への参加（出ていく取り組み）は行っているものの、地域住民や近隣の方々を事業所側へ巻き込むような日常的な相互交流には至っていない。	子どもたちが地域の中で直接多様な人と触れ合うプログラムや、近隣住民の方々との双方向の交流機会を計画化できていない。	事業所の特徴を活かした小規模な地域交流企画（作品展示、敷地内でのプチイベント等）を検討・試行し、無理のない範囲で地域に開かれた事業所づくりを進めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名		さくらクラブ		公表日		2026年 10月4日					
				利用児童数		22名		回収数		23人	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	6	0	2		限られたスペースを有効的に活用できるよう考えていきます。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	5	0	4		基準を満たす職員配置ではなく、加配加算を取得し運営できるように努めてまいります。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	3	0	3		年齢・特性等に応じて適時、様々な情報伝達ツールを利用するようにしていますが、様々なご意見を伺いつつ、改善してまいります。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	2	0	1		毎日、床清掃・消毒等 行っていますが、汚れや埃がたまっている場合もあります。気持ちのいい環境を整えるように努めます。			
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	2	1	1		一人ひとりの個性を理解し、幅広い視野で支援できるように、また各種研修に参加し学びを深めてまいります。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	1	0	1		子どもたちが事業所での活動を通じて、成功体験、また安心して失敗できる環境を整え活動してまいります。			
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	2	0	0		懇談、活動を通じて、ご家族や一人ひとりの思いに寄り添い、また最善の利益は何かを考え、取り組んでいきます。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2	0	1		今に必要なことだけでなく、将来を見据えた計画、支援が行えるように考えてまいります。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	1	0	0		支援計画に記載されていること、いないことも含めて、一人ひとりの個性に応じた支援を心掛けていきます。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	4	0	4		安心して過ごせることを望む方、様々なことに挑戦したい方、それぞれの気落ちを大切に活動内容を検討していきます。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	5	11		外出時の交流以外、計画的に交流、活動する機会を設けることはできていません。今後検討してまいります。			
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1	0	1		利用時、また必要に応じて情報発信できるように努めてまいります。			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	2		懇談時等、ご説明させていただいていますが、ご不明な点があればいつでもお問い合わせください。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	0	0	2		研修会・交流会の案内、またご家族と共に学びを深められるような企画を検討していきます。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1	0	1		日頃の記録・送迎時、また懇談等を通じて、それぞれの場所で見せられる様子を共有し、支援につなげていきます。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	0	0	2		年2回の懇談だけでなく、ご要望があれば話を聞き取る機会を設けるようにしています。お気軽にお声かけください。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	2	0	1		一人ひとり、またご家族の思いをしっかりと受け止め、共に育てさせていただく視点で取り組んでまいります。			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	3	1	4	あるけれどももう少し回数が増えると情報交換出来るのではないかと思います。	交流の場、定例会（合同懇談会）、野外交流会等ありますが、どのようなニーズがあるのか考え取り組んでいます。きょうだい間をつなぐ取り組みは野外交流会しかなく今後の課題です。			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	0	0	4		ご相談がある場合、懇談やサービス担当者会議を待たず、都度 お声かけください。またご相談には迅速に対応できるよう取り組んでまいります。			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	0	0	2		ご家族にはLINE、手紙、子どもたちには絵カードや指文字等、様々なツールを用いています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	2	0	3		日々の活動は実施記録。他にクラブ日より、公式LINEを配信し、自己評価、第三者評価はHPにアップしています。SNS等の有効活用については検証してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	0	0	3		誤配等、ミスがないよう取り組みます。また個人情報の配信には最新の注意を致しますがご不明な点はお尋ねください。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	2	1	6		各種マニュアルを整備、定期的に更新しています。周知・説明が利用開始時、お便り等のみになっているで検討してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1	0	15		BCP作成、万が一に備えていますが、万全を期すよう、より災害を意識した研修・訓練を検討してまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	3	0	6		お便り、定例会等、情報発信を行っています。が、幅広く発信できていません。ご不明な点があればお気軽にお尋ねください。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1	0	6		事故・怪我・体調不良等、何かあれば速やかに連絡するように取り組んでいきます。何かご不明な点があればお尋ねください。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	3	0	0		第2、第3の居場所として、自分の気持ちが出でできる、安心して利用できる事業所であるように努力してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	6	0	0		楽しみに、何かあっても相談ができるという安心感の元、通所いただけるように努力してきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	1	0	1	建物が古く、地震が来たらと不安にはなります。	一緒に悩み、考え、共に歩んでいけるように努力してまいります。建物は耐震工事を行っていますが、将来を見据えて、新たな活動場所を含めた様々な可能性を検討中です。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				
さくらクラブ		2026年 10月 4日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		部屋数は少ないが、広さは確保できている。	必要に応じて、間仕切り等を行う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		少ない職員体制（職員配置基準は満たしている）で協力して、活動を行っている。	加配体制での活動支援が行えるように、職員の採用を進める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		構造化が十分とは言えないが、道具等、配置を決めている。事業所内は段差が少なく、車いすの利用可能。	視覚的な支援等、一人ひとりに必要な分かりやすさを考え、実施していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃・消毒を行い快適に過ごせるよう環境設定を心掛けている。	大きな部屋は使いやすく、自由に設定ができる一方、音が響きやすい、また視覚的にささぎるものが少ないなど工夫が必要になる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		間仕切りは、カーテンロールになるので、完全な「個別部屋」にはならないが、別の空間を作るようにしている。	個々の状況に応じて、空いたスペース（旧ラベンダー）も、活用していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		事業理念、事業計画との運動を意識した目標管理設定。毎朝の打ち合わせ。	日々、振り返りの時間は設けているが、業務に追われPDCAが不十分な部分がある。改善していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の方へのアンケート、定例会や懇談、交流会など意向を確認する機会を作り、業務改善につなげている。	改善が進んでいない項目の検討。また事業所への要望、意見が伝えられていない方はいないか。傾聴し伺っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議、打ち合わせ等の時間を使い、情報共有、意見交換をする機会を設けている。	午後から勤務する職員への引継ぎを行うが、どうしても十分、意見交換が出来ていない場面もある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価を実施（令和6年度）し公表している。また第三者委員の定期訪問もある。	外部評価を定期的に行い、ボランティアの受け入れを進める等、中だけでなく外部の目を入れて改善に務める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の全体研修、階層別研修、部門内研修、外部研修（主に市主催）に参加する機会がある。	職員体制上、自由に外部研修に参加できないことがあり、また非常勤職員の研修の機会が少ない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。	支援プログラムに縛られず、柔軟な活動提案を行うようにし、充実したプログラムになるよう話し合いを進めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		活動中の様子、思いの聞き取り。ご家族からのご意見、希望、要望等を聞き取り、個別支援計画を作成している。	様々な角度から検討を行うため時間を要している。様々なツールを用いることを検証し、より個別支援計画へ反映できるようにする。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		活動の様子、ご家族からのご意見、要望等も踏まえながら、児童発達支援管理責任者と現場職員が協力して作成している。	意見交換を行うが、一人ひとり十分な検討が行えていないとも感じる。将来につながる最善の利益とは？考えて続けていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画を細分化した専門的支援計画を作成し記録している。各種計画または付随する活動を意識し取り組んでいる。	子どもの様子は、日々変わっていく。「計画」に固執せず、話し合い、柔軟に対応していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		年度当初のシート作成、支援記録の作成、半期の振り返りなどでアセスメントを行うようにしている。	客観的、主観的。様々な記録を通じて、アセスメントを行うようにし、多くの視点・考えを話し合いを通じて再確認していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		活動の様子、ご家族の思い、関係機関からの情報共有を行い、アセスメントを行い、一人ひとりに応じた計画作成をしている。	長期、短期設定を行うが継続的な支援を必要とすることが多い。将来に向けて何を取り組んでいくのか整理し、多くの経験が出来る目標設定の在り方を学び、深めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動内容については、職員間で意見交換を行うようにしている。長期休暇については、様々な角度から計画を立て実施している。	利用児童、ご家族の意見、また様々な専門職からの意見もプログラムに反映させていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な活動を設定し、新たなチャレンジが出来るように工夫している。曜日、その日の様子等で変更するなど柔軟に対応している。	課題改善、経験を積む・・・だけでなく、自信につなげる、小さな失敗経験、ストレングス部分を伸ばすことにも意識していく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		職員間で相談し、計画を作成し実施している。また状況に応じて、集団・個別を適時臨機応変に組み合わせている。	個別支援計画に縛られるのではなく、個々の職員間で話し合い、幅広い視点で支援計画を考え、実施していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の打ち合わせで、1日の動き（出席、欠席、送迎、行事、会議等）を確認している。	打合せに参加できない非常勤職員にも、必要な情報を伝えるようにしているが、十分な時間が確保できていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動の記録（支援記録）を作成する際、その日1日を振り返り、気づきなどを共有している。	終了後の時間はあまりないことから、翌朝に情報共有していることも多い。日々の支援、ご家族からの情報等の確認も行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録を様々な角度からとるようにし、支援の検証、改善を行っている。	主観的記録（エピソード記述）、客観的な記録を用い、支援の検証、改善を継続して行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1度、懇談、モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。	個別支援計画に縛られるのではなく、必要な支援を都度変わることを念頭に置き、支援を行っていく。計画の変更は柔軟に行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		複数組み合わせ個別支援計画を作成し実施するようにしている。	地域との交流する機会が少なく、十分とは言えない。事業所間の交流は行う機会はあるが、出来ることから実施していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の遊びの中、生活の中で多くの経験、小さな自己選択が出来る機会を設けている。	自己決定を育むためには様々な仕掛けが必要であり、日々の研鑽を怠らないよう取り組んでいく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が会議に出席している。また事業所内で会議が開催される際には現場職員も参加している。	会議に参加する前に、現場職員の声を聞き、計画のこと、以外のこと様々な角度で情報共有できるように丁寧に準備する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	情報提供依頼があれば行うが、積極的な情報提供が出来ていない。	引継ぎや情報共有ができるように、情報の整理を行い、情報提供が出来ることを伝えていく必要を感じる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		お知らせいただいた情報を元に送迎予定表を作成し、都度 新たな情報を元に修正している。	漏れがないように、引き続き情報共有に努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	学校、こども園等、送迎時やご家族を通じて情報共有を行うことはあるが、改めてという機会は少ない。	積極的に働きかけ、必要に応じて情報共有の場を持てるように発信していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	放課後等デイサービス卒業まで在籍し、移行された方は少ない。進路先の事業所に行き情報共有を行うことはあった。	今後、卒業される方に応じて、必要な引継ぎ、情報共有が行えるようにしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		今年度、初めてではあるが、専門職の派遣を受けて体の動かし方、言語について等、リハビリ、成長の促しについて助言いただく機会を得た。	児童発達支援センター（療育園）と引き続き情報共有を行い、現場職員とも相談し、より実践に直結する取り組みについて検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	野外活動時（公園や地域行事）に交流する機会があるが、定期的な交流の機会を作れていない。	まずは同法人内の交流、他事業所や法人との交流を模索していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会、サポートネットワーク等、様々な機関に参加しているが、情報共有においては十分でない部分がある。	参加だけに留めず、法人内や他法人（通所支援事業所）へ情報発信・共有に努めているが、継続していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		実施記録、送迎時などを通じて、様子を伝え、また情報共有を行うようにしている。	自力通所、送迎時にご家族と会わないこともあるので、情報共有・交換には差があるように思うので、積極発信を心がける。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族間の交流を行う「交流の場」等を実施している。自己企画の研修会はできておらず、他所で行う案内を行う。	必要な情報発信ができるように、学習会などは企画・運営を検討する。引き続き他法人等の情報発信も積極的に行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学、契約時に時間をかけて説明するようにしている。変更の際には、都度説明を心がけているが、発信が遅れることがあった。	変更は随時伝えるとともに、年度当初など再確認すべきことは積極的に情報発信していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		懇談時、職員との意見交換を行い意思を尊重した計画を作成するようにしている。	どちらかという家族視点寄りの支援計画になっている。子ども最優先、利用児童本人の気持ち、将来を見据えた計画を作成する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		懇談や個別支援計画の配布を通じて、支援計画の修正、同意の確認を行っている。	丁寧な説明を心掛け、変更、追加事項（削除事項）がないか丁寧に聞き取りを行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		実施記録、送迎時等、話を聞き、適時対応している。また希望に応じて適時、事業所で話し合いをする機会を設けている。	定期的な実施はできていない。懇談、交流会、様々な機会を通じて話し合う機会を設ける。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		自由に話をする交流の場、家族・子どもたちが参加する野外交流会など交流する場は設けている。参加したきょうだいが交流する場面もある。	様々な交流の機会を作っているが、既存の行事に捉われず、幅広く参加の有無が選択できるように企画を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情・ご意見についてはご家族にに応じて、個別に柔軟に対応するようにしている。	いつでも話ができる、相談できる事業所であるように学びを深める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		クラブだより、公式LINE、花の会ニュースなど様々なツールを使い情報発信を行っている。	家族、利用児童からの意見を伺い、ニーズに合った、また情報共有ツールとして必要な情報発信を心掛けていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		デジタルデータ、また紙面に名前が書かれているものは個人情報として注意して取り扱うようにしている。	情報共有の際、個人情報が必要な範囲で伝えられているか、データの取り扱い、書類の配布ミスがないよう常に注意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		基本、言語での意思伝達を中心に行っているが、必要に応じて絵カード、指文字、ジェスチャーなどを交えている。	お互いに気持ちを伝え、感じ合うことに必要なツールを考え、実践していく。成功、失敗、思いを共有し寄り添いを考えていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の町内会に所属し、掃除当番等を行っているが、地域の方が施設内に入るような機会がない。	ボランティアの受入れ、地域のイベントへの参加等、受け入れ、参加両面を視野に検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備している。感染症対策については定期的に振り返りを行っているが、周知や見直しが不十分な部分がある。	どのようなマニュアルがあるか、説明する機会を作り、各種マニュアルの定期的な見直しを行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP計画を整備している。ただ昨今の多岐に渡す災害対策について十分な見直しが出来ていないとも感じる。	研修をする機会を設けているが、表面的なことになり、具体性に乏しい。計画が実践で使えるように精度を高めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時での聞き取り、調査書を通じての確認するなど、命に直結する問題については必ず確認を行っている。	服薬の変更、てんかんの頻度など、懇談時等に確認するようにしているが、都度 変更に対応できるよう聞き取りを行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事前にアレルギー対応が必要かどうかを確認し、必要に応じて食事面等、配慮していく。	漏れ落ちがないように、職員間で共有し、おやつなど、メニュー面で配慮していくようにし、柔軟に対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し会議、研修等 職員間で確認するようにしている。	安全計画の運用、検証について、時間をあまり掛けられてない。安全への意識を高める研修、訓練、確認を実施する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		外出、プール等、安全に配慮して取り組んでいくこと、また注意事項について意見を伺っている。また気象警報等の確認を行う。	より安心して利用いただけるように、意見交換を行う機会を、家族、職員とも継続して作っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		都度、職員間で情報共有し、大きな事故につながらないようにしている。	情報共有に努めるが、記録としては少ない。書式の簡略化、情報の取り扱い、意識をどのように高めるか検討していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人の虐待防止研修、部門内での研修等、学びを深める機会を設けている。	虐待防止＝人権意識の向上につながる。法人内の取り組みを検討し、職員としての立場を再確認していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		まだ身体拘束の実施はないが、虐待防止委員、身体拘束委員会でのルールに沿って実施していく。個別支援計画に記載している。	身体拘束3要件に当てはまるのか、記録はどうするか等、確認していく。身体拘束とはどのような状態か再確認、学びを深める。